

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<p>授業は、講義・演習を中心に、実習・実験・研修（国内・海外）をも組み合わせて行われている(A4-3-1)。文学部は、人文諸科学に関する学識を修め、各学科で学んだそれぞれの専門性を生かして、日本社会・国際社会に対する高い見識をもつ人材を育成することを目的とするため、各学科の教員が様々な授業形態と方法を採用し指導している。</p> <p>たとえば、日本文学科の「比較文学・文化特殊講義」は講義科目として、グローバルな視点から日本文学を考察するための方法・知識を学び、中国学科の「中国文学特別演習 1・2」「中国哲学特別演習 1・2」「中国史学特別演習 1・2」「中国芸術学特別演習 1・2」は演習科目として設置されており、英米文学科の「英語・文化コミュニケーション演習 1」は国内語学研修、「英語・文化コミュニケーション演習 2」は海外語学研修に振り替える演習科目として、教育学科の「理科 1（地学）」「理科 2（生物）」等は実験科目、「音楽研究 2（管楽器）」「音楽研究 4（声楽）」「美術研究 3（ろくろ）」「美術研究 5（染色）」「舞踏文化研究」「野外教育」等は実習科目として、書道学科の「書道文化演習 1（国内）」「書道文化演習 2（海外）」は研修科目として開講されている。</p> <p>2014 年度入学より適用した卒業要件単位（124 単位）における 1 年間の「履修登録単位数の上限」は、5 学科共通で、1 年次から 3 年次は 44 単位、4 年次は 49 単位を上限としている。ただし教育学科は、卒業単位に諸資格に関する科目を合わせて、各年次で 64 単位を上限とする(A4-3-2 第 23 条の 6 第 2 項、B4-3-55 d2-表 20)。これに加えて、2 年次から 3 年次への「進級要件単位数」を、日本文学科 40 単位、中国学科・英米文学科・書道学科 44 単位と定めている（教育学科は進級要件の定めがない）(A4-3-2 第 23 条の 6 第 4 項)。このように履修登録単位数の上限と進級要件単位の下限を設定することにより、各年次においてきめ細やかな学習指導の充実を図っている。</p> <p>学生の主体的参加を促す授業は、各学科とも演習（ゼミ）を中心に組み込んでおり、すべての演習担当教員が「ゼミ合宿」を休暇中に実施して、学生の主体的な学習環境を授業外にまで設けている。さらに書道学科では、合同ゼミ研究発表会・批評会も学生主体で運営されている(B4-3-2)。社会とのつながりについては、各学科を基盤とする学会（日本文学会・漢学会・英文学会・教育学会・書道学会）主催のシンポジウムや講演および人文科学研究所主催の研究発表会等に社会人講師を招聘し、大学での学びと社会の現実の場との関わりについて考える機会を提供している。</p>
4-3-2	シラバスは、全学統一の書式が作成され、それに従って記入している（A4-3-1、B4-3-19）。成績評価についても教員間のばらつきがないように、基準を明記するようになった。チェック体制を一次（事務室）、二次（各学科教務委員またはカリキュラム委員）とし、基準に沿うように実施している。授業内容・方法とシラバスとの整合性についても、留意している。2015 年度の「学生による授業評価アンケート」の結果では、教員はシラバスを授業に反映していたかの設問に対して、学部平均で 69.4%の学生が肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」）をしている（B4-3-55 d2-表 23）。
4-3-3	成績評価と単位認定は、学則に基づき、シラバスに明示した評価の方法・基準等をもとに、適正に行われている（A4-3-1、A4-3-2 第 21 条）。既修得単位の認定も同様である（A4-3-2 第 19 条の 2～4）。
4-3-4	全学の FD 委員会と並行して、2010 年度より学部独自の FD 委員会を設置した。全学で毎年度実施される「学生による授業評価アンケート」結果を学科選出の FD 委員が分析し、各授業担当教員にフィードバックしている(B4-3-24 p. ～p.)。教員相互の授業改善の取り組み等の実践交流会（年 1 回）を中心とする、学部独自の FD 研究会を開催し、その記録・資料

<p>を報告文として毎年度「文学部・FD委員会ニュース」を発行し、教育内容・方法を検証し、課題解決に向け取り組んでいる(B4-3-33)。</p> <p>2015年度文学部FD研究会における各学科からの報告内容は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文学科・美留町 義雄「アニメ・マンガを取り入れた授業の試み」 ・中国学科教員・村井信幸「教えることの難しさ」 ・英米文学科教員・生駒 久美「『アメリカ文化論』における私の取り組み」 ・教育学科教員・石淵 聡「体重をささえあう」 ・書道学科教員・高城 弘一「街中のオモシロがな」

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	「学生による授業評価アンケート」結果について各学科のFD委員が検証し、授業改善の提案に努める。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<p>A4-3-1 大東文化大学・大学院シラバス (CD-R) 大東文化大学ホームページ (Web シラバス) http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html <既出>A4-2-16</p> <p>A4-3-2 大東文化大学学則 <既出>A1-1</p> <p>B4-3-2 書道学演習(ゼミ)中間発表会</p> <p>B4-3-19 2016年度シラバス(授業計画)の作成依頼について</p> <p>B4-3-24 学生による授業評価アンケートと大学教育 2015年度 <既出>B3-12</p> <p>B4-3-33 文学部・FD委員会ニュース(最新号)</p> <p>B4-3-45 文学部FD研究会資料</p> <p>B4-3-55 大学データ集 <既出>B1-22</p>
<p>〔追加資料〕</p>

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-4「学生による授業評価アンケート」結果を学科選出のFD委員が分析し、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努める。	「文学部・FD委員会ニュース」を発行し、FD委員会および教授会において、教育内容・方法を検証し、課題解決に向け取り組んでいる状況を記載している。			A		
14年度 目標	4-3-4「学生による授業評価アンケート」結果を学科選出のFD委員が分析し、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努める。	シラバスの執筆方法についての、簡潔な指針を示したものを作成する。	A				
15年度 目標	4-3-4「学生による授業評価アンケート」結果を学科選出のFD委員が分析し、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努める。	授業評価アンケートの分析結果について、教授会に報告される。		A			
16年度 目標	4-3-4「学生による授業評価アンケート」結果を学科選出のFD委員が分析し、各授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努める。	授業評価アンケートの分析結果について、教授会に報告される。			A		

